

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月1日(土)

### 《真の正しさを識別できる目を持ちましょう》

洗礼者ヨハネの死は、皆様よく知っていらっしゃる物語だと思います。今日は、ヨハネではなく、ヘロデに目を向けて、ヘロデの振る舞いと心の働きについて一緒に黙想してみたいと思います。

皆様、アインシュタインという人をご存知ですよね。世界的な物理学者で、知能指数が一番高かったと言われている人です。高校時代の彼の話をご存知でしょうか？彼がとても頭が良いことは、後に世界中の教育界で認められています。けれども高校時代の彼は、劣等生として先生も諦めた生徒だったそうです。(エジソン博士も同じでしたね。)どうしてもついてこれないので、先生が母親に手紙を書いたそうです。「あなたの息子さんは、何をしても上手にはできません。可能性がありません。」と。その手紙を読んだ母親は、先生に返事を書きました。

「私の子どもは、劣等生ではなくて、ただ他の子ども達と異なる、違うだけです。」と。そして、その返事を書いてから、アインシュタインを呼んで話したそうです。「おまえが他の子と同じようになると頑張れば、いくら上手にできても同じになるだけでしょう。しかし、他の子と異なるということは、最高になる可能性もあるということです。」と。素晴らしいですね。

日本の『子どもの躰』では、「目立つな」と言いますね。他の人より優れても目立ちます。少し劣っていても目立ちます。その時、どうしますか。他の子ども達より優れた素質を見せる子どもならば、母親の立場では、人々からいじめられないように気をつけるでしょうね。同じように、劣っていても気をつけるでしょう。

では、私たちカトリック信者ならば、そういう時にどうすればよいでしょうか。人より優れている場合は、褒めてください。皆様の間に、「こういう面では優れたタレント持っている。」という人が見られたら、その人を励ましてください。もっとそのタレントを発揮できるように支えてください。人より劣っているところが目につく人ならば、引き上げてください。「一緒に行こう」という強い心が、福音的な心ではないかと思います。

皆様の子どもさん達は、もう大人になっていると思いますが、親子の関係だけではありません。共同体の中でも、やはり差はあります。一年も経たないうちに、日本語がぺらぺらになる外国人もいるし、十年も二十年も日本にいて、「あ・い・う・え・お」さえ無理な人もいます。そういうことが、その人の評価の基準になってはいけません。もし、少し劣っている人ならば、どのくらいの手助けが必要なのかを考え、その人が上手く進めるように導こうとすることが、必要ではないでしょうか。そして優れている人がいれば、その人がもっと上手に進めるように支えようとする心が必要ではないかと思います。

今日のヘロデの話(マタイ 14・1-12)に入ってみましょう。ヘロデは、踊りを踊って自分を喜ばせたヘロディアの娘に「何でもしてあげよう。この世の中の半分でもあげよう。」と約束をしました。たくさんの方がその約束を聞いていました。そして、「お前の望みは何か」と聞きます。すると、ヘロディアの娘は、母親にそそのかされて、「ヨハネの首を盆にのせて持ってきてほしい」と頼みます。その時ヘロデは、「人の前で約束をしたのに、それを守らなければ顔が立たなくて、恥ずかしい」という気持ちだったのでしょう。マタイではなくて、ルカによる福音では、「ヘロデはヨハネを憎んだけれど、尊敬もしていた」と書いてあります。結局、尊敬する人を殺してしまったわけです。

さあ、皆様、人間ならば失敗もあるし間違えもあります。それが間違えであると気がついたとき、どのようなことがあっても、絶対に行ってはいけません。しかし、面目のため、恥のために、悪いことであると分かっているながらも実行してしまうことが結構あります。それは、周囲の人々と同じ気持

ちになりたかったからでしょう。たくさんの人々が望んでいる気持ちに従いたかったのでしょう。しかし、100人中99人が「これは正しいです」と言っても、自分では「正しくない」と思ったら、「私は反対です」と叫ぶことのできる心が、私たち共同体のみんなに必要なだと思います。

間違っていることへの反対は、意味があります。発展するための否定、それが私たちの役割ではないかと思えます。後ろ向きの気持ちで否定をする人は、たくさんいますが、それは必要なものです。発展のために、一緒に上手に生きるために、自分がいじめられても正しいことは正しい、悪いことは悪い、と言える勇気と知恵が私たちには必要ではないでしょうか。

皆様、もしたくさんの人々の言葉がみんな正しかったらそれは幸いです。しかし、この世の中、いつもそのようには動きません。たとえば、ヒトラーによってドイツゲルマン民族のほとんどの国民がだまされました。彼の話が正しいと思ってしまいました。そして、彼に従ってユダヤ人をたくさん殺してしまいました。それが神様のみ旨であるとみんな信じていました。

私たちには、大勢の人の意見に左右されてしまう弱さがあります。カトリック信者ならば、たくさんの人々が「正しい」と叫んでも、本当に正しいのか、それを識別する目が何よりも必要であることを、この福音をとおして勉強しましょう。

ありがとうございました。